

みんなの学校

～地域とともにある学校づくり・まちづくり～

令和5年度
蒲郡中学校区
「学校運営協議会」だより
第1号
令和5年5月19日発行

蒲中学区小中一貫型

蒲郡市地域学校共育推進プラン

学校運営協議会制度スタート

子どもたちの未来は
このまちの未来

第1回蒲中学区学校運営協議会報告

5月13日（土）14：00から、蒲郡中学校多目的室において「第1回蒲郡中学校区学校運営協議会」が開催されました。

【学校運営協議会とは？】

学校運営協議会とは、「学校運営」に地域の代表者が「参画」するための会議体です。今後、校長は自校の学校運営の方針をこの会議に提案し、承認を得る必要が生じます。また、協議会として、「学校運営」や「教職員の配置」に関して教育委員会や校長に対して「意見」を述べることもできます。この協議会を設置している学校を「コミュニティースクール」と呼びます。

【学校運営協議会の3つの役割】

- 1 校長の作成する学校運営の基本方針を承認する
- 2 学校運営について教育委員会又は校長に意見を述べることができる
- 3 教職員の配置に関して、教育委員会に意見を述べることができる

【なぜこの制度を取り入れたの？】

学校だけで決めていた学校運営を地域の代表者と一緒に考えていくことは、学校、家庭、地域の大人が「子どもの成長という同じ目標」を意識し、チームとなることに繋がります。「わたしたちの学校」という意識を高めることに繋がります。

「みんなの学校」の提唱者、木村泰子さん（大阪市立大空小学校初代校長）は次のように述べています。

地域住民は「土」、校長は「風」。校長が代わっても「土」が自分たちの「地域の学校」の土を耕し続ける限り、地域の学校は根を張り、どんな風が吹いても必ず復元する。これが持続可能な「地域の学校」づくりです。

【小中一貫型って？】

学校運営協議会は「原則一つの学校に一つ設置する」ことになっています。蒲中学区は蒲郡中学校に通うことになる3つの小学校と連携し、9年間の積み上げを重視した教育活動を行う小中一貫教育を進めてまいります。そのために、蒲中学区4校を一つの学校として考え、蒲中学区で一つの協議会を組織しています。



第1回蒲郡中学校区学校運営協議会（5月13日）報告

1 はじめのことば

2 代表校長あいさつ

3 来賓あいさつ

公務ご多用の中、鈴木寿明市長、壁谷幹朗教育長にお越し頂き、ご挨拶をいただきました。また、大原副市長（前教育長）もご参観いただきました。蒲郡中学校区の動きに関心と期待を寄せていただいています。

4 委嘱状の伝達

壁谷教育長から代表で廣中達憲委員に協議会委員の委嘱状が渡されました。協議会委員は校長が推薦し、教育委員会が委嘱することとなっています。

5 自己紹介

右の委員さんの他に、蒲中学区担当の市教委学校教育課の小島主幹、彦坂主幹、壁谷統括コーディネイター、蒲中学区四校の管理職が参加しています。

6 会長・副会長選出

会長に **廣中 達憲 委員**
副会長に **山本 昌宏 委員** が承認されました。

【令和5年度蒲中学区学校運営協議会委員】

学識経験者	廣中 達憲	元教育長_元蒲南小校長
学識経験者	鈴木 康仁	元市教委_教育委員長
学識経験者	内田 直人	県立蒲郡高校校長
総代会代表	伊藤 武利	蒲中学区総代会代表
同窓会代表	山本 昌宏	蒲郡中同窓会長
学校医代表	伊藤 真理	前学校保健会会長
地元企業関係	志賀 裕志	金トビ志賀営業部長
地元企業関係	嶋田 義男	艶栄工業社長（地元在住）
地元若者支援	鈴木 法政	若者サポステ所長
地域文化教育	小林 龍二	竹島水族館館長
地域福祉関係	鈴木 照江	市子ども会連絡協議会長
学区保育園	牧原 乙子	南部保育園長
学区民生委員	小田喜美代	民生委員
学区敬老会	寺澤 忠宣	蒲東小敬老会長
P.T.A代表	加藤 朱美	保護者代表（蒲南）
P.T.A代表	濱千代 勸	保護者代表（蒲東）
P.T.A代表	牧原 崇	保護者代表（竹島）
P.T.A代表	伊藤 承章	保護者代表（蒲中）
公民館代表	山田 悦依	小江公民館主事
公民館代表	岸本 等志	東部公民館長
公民館代表	内田 憲彦	府祖公民館館長
協働活動推進	細井真理子	蒲郡中推進員
協働活動推進	早川 康子	蒲南小推進員
協働活動推進	小田 正男	蒲東小推進員
協働活動推進	山口やす子	竹島小推進員



7 協議（議長は廣中協議会長）

（1）蒲郡中学校区における学校運営協議会制度について

学校運営協議会の役割、学校運営協議会に期待すること等を岡田校長が説明しました。「大人のチーム力」で子どもの育ちにかかわる体制をつくり、地域の未来を託す子どもたちにかかわっていききたいとの語りがありました。

目標の共有

大人の
「チーム蒲中学区」

尊敬できる関係

(2) 各学校の学校運営の基本方針について

承認

① 蒲郡南部小学校（遠山校長）

「自律・尊重・創造」する子を育成するために、「地域学校協働活動」をより活性化させ、「魅力ある授業・活動づくり・人間関係づくり・社会に目を向けた教育実践」に重点的に取り組む。

② 蒲郡東部小学校（尾崎校長）

校訓「事に魂を込めよ」を体現するため、「やる気・本気・生き生き」をキーワードに、本気になってとことん取り組み、くぐり抜けることを通して、心と体と知恵を磨いていく。

③ 竹島小学校（柴田校長）

家庭・地域との連携・協働を基盤にし、全教職員で「社会に開かれた教育課程」を開発し、地域の核となり、みんなの笑顔が輝く学校づくりに努める。

④ 蒲郡中学校（岡田校長）

「自ら学び、動き出す生徒を育成する授業づくり・人を大事にする仲間づくり・地域に位置付いた学校づくり」をキーワードに、基盤となる「チーム蒲中」づくりを本年度も重点とする。

【蒲中学区四校連絡会】（目標及び課題解決組織）



【令和5年度の課題】

- 蒲中学区の目標やキャッチフレーズ、育てたい子ども像
 - 蒲郡中学校区共通理研修主題作成
- 学校運営協議会の目的、意義の共通理解
 - 学校運営協議会が「出来ること」「やりたいこと」のリストアップと協議
 - 学校運営協議会制度に対する教職員、保護者との情報共有と理解促進、参画意識の醸成
- 社会に開かれた教育課程
 - 地域学校協働活動と学校の教育課程の連携
 - 教育課程（学校の授業実践、単元構想等）の公開
 - 9年間学びマップ、地域資源バンク、地域課題解決型学び
- 学区：小中一貫型について
 - 9年間の教育課程（総合的な学習の時間を軸に）と生徒指導計画（ライフスキルプログラム）
 - 小中連携、小小連携の模索（アイデア、試行、実践）
 - 児童会・生徒会活動、ラジオ体操、部活動、中学生の行事支援、教職員の交流（研究授業参観、行事参観等）
- 生涯学習（地域学校協働活動）
 - 中学生の地域貢献（小学生放課後子ども教室、地域活動への中学生の参加、防災訓練等）
 - 生涯学習講座の開催 「西海の日」の蒲中学区版、合い言葉は、「みんな先生で誰でも生徒」
- 学区教員研修
 - 役割研修（学区教務主任者会、学区教務主任者会） ②中堅研修、教務割り研修、教育論文研修、生徒指導研修
 - 保護者対象「子どものインターネット、ライン等」にそそりスク（原則）

(3) 蒲郡中学校区の地域学校協働活動について

壁谷統括コーディネーターから令和4年度の取り組みと令和5年度の方向性について説明がありました。

- 「1409」 → 令和4年度に蒲中学区4校にかかわっていただいた地域のボランティアの数は延べで1409名。
- 「70」 → 蒲中学区応援団として登録している方の総数は70名。（令和5年3月31日現在）
- 「28」 → 令和4年度から本格的にスタートした放課後子ども教室は学区3小学校で28回実施。
- 「199」 → 令和4年度に蒲郡中学校の生徒が地域で貢献したボランティアは延べ199名。



8 熟議 「蒲郡中学校区で『育てたい子ども像』について」(グループ討議)

5つのグループに分かれて「語り場、しゃべり場」の時間を設けました。テーマは、「育てたい子ども像」です。グループで語り合ったあとに、全体で語りの内容を共有しました。主な意見を紹介します。

■失敗を恐れて一歩が踏み出せない子どもの状況が気になる

■家庭や学校も、失敗をさせないように、トラブルが起きないように、トラブルが起きたら大人が代わって解決に入ってしまう、大人がお膳立て・・・、そんなかかわり方が多いのではないのか

■知らず知らずのうちに、失敗や間違いを恐れる子、間違えることを悪いことと捉える子どもにしているのではないのか

■自分も他人も大事に出来る子、挑戦できる子にしたい



■公民館も地域の子どもたちが集う場にしていきたい

■明るさや笑顔、優しさや思いやりがキーワードになる

■目標をもち、挑戦できる子

■失敗や課題を乗り越えられる心をもちあわせて欲しい

■友だちや周りに「助けて」と言える子、そんな仲間作りやコミュニケーションのとれる資質

■そのために、地域で大事にしたい「あいさつ」

■「あいさつ」が繋がりを生み、強くしていく一つの手段になる

■こうしたかかわりから「地域が大好きな子」「自分の故郷を誇れる子」が生まれてくるのではないのか

9 連絡

次回会議の案内、議事録や広報用の写真記録の了解、学校参観日等の連絡等

※体育大会、運動会、授業参観（市教委学校訪問、研究授業の案内）、蒲中文化の日、学習発表会、長距離駅伝、マラソン大会、部活動の大会等、学校の教育活動へのご参観を依頼。

10 終わりの言葉

以上、第1回協議会の概要でした。